

食卓二期一会



長田弘



晶文社

食卓一期一会

著者について

長田弘（おさだ・ひろし）  
一九三九年福島市生、早稲田大学卒業、詩人、  
主な著書に『詩人であること』（岩波書店）、  
『詩と時代1961-1972』（晶文社）、  
『見よ、旅人よ』（朝日選書）、『私の二十世紀  
書店』（中公新書、毎日出版文化賞）、『歌書  
百遍』（岩波書店）など。

一九八七年九月二〇日初版  
一九八八年三月一〇日三刷

著者 長田弘

発行者 株式会社晶文社

東京都千代田区外神田二一―二二

電話東京二五五局四五〇一（代表）・四五〇三（編集）

振替東京六一六二七九九

堀内印刷・牧製本

© 1987 Osada Hiroshi

Printed in Japan

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、著者および出版社の権利の侵害となりますので、その場合には予め小社あて許諾を求めてください。  
〈検印廃止〉落丁・乱丁本はお取替えいたします。

食卓二期一会



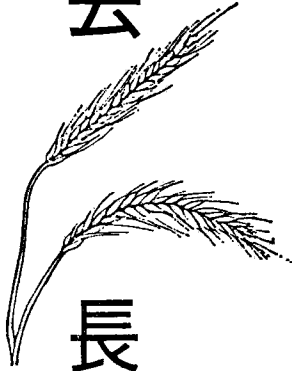
長田弘



晶文社



食卓二期一会



長田弘



晶文社

ブックデザイン  
平野甲賀

食卓一期一会  
目次

台所の人々

言葉のダシのとりかた	14
包丁のつかいかた	17
おいしい魚の選びかた	20
梅干しのつくりかた	23
ぬかみその漬けかた	26
天井の食べかた	28
朝食にオムレツを	31
冷ヤッコを食べながら	34
イワシについて	36
かぼちゃの食べかた	39
ときには葉脈標本を	42



ふろふきの食べかた	44
戦争がくれなかったもの	47
餅について	50

### お茶の時間

テーブルの上の胡椒入れ	54
何かとしかいえないもの	56
ドーナツの秘密	58
きみにしかつくれないもの	60
ジャムをつくる	62
クロワッサンのできかた	64
サンタクロースのハンバーガー	68

- ショウガパンの兵士 70
- パイのパイのパイ 72
- キャラメルクリームのでくりかた 75
- いい時間ののでくりかた 78
- パリィプレストのでくりかた 80
- イタリアの女が教えてくれたこと 82
- 食べもののなかには 84
- コトバの揚げかた 86
- ハッシュド・ブラウン・ポテト 88
- ジャンバラヤのでくりかた 90
- アップルバターのでくりかた 92
- メイプルシロップのでくりかた 95

食卓の物語

ユッケジャンの食べかた	100
ビーナツスープのつくりかた	
ガドガドという名のサラダ	104
カレーのつくりかた	106
シャシリクのつくりかた	110
パン・デ・ロス・ムエルトス	113
テキーラの飲みかた	116
トルコ・コーヒーの沸かしかた	118
ギリシアの四つの言葉	120
アイスバインのつくりかた	123
卵のトマトソース煮のつくりかた	126

絶望のスパゲッティ	128
パエリヤ讚	130
ブイヤベース・ア・ラ・マルセイエーズ	132
ブドー酒の日々	134
ポトフのつくりかた	136
十八世紀の哲学者が言った	138
A POOR AUTHOR'S PUDDING	140
チャンプの食べかた	143

食事の場面

ラ・マンチャの二人の男	148
ミスター・ロビンソン	151

ダルタニャンと仲間たち	154
孤独な散歩者の食事	157
少年と蟹	160
ソバケーヴィチの話	164
まことに愛すべきわれらの人生	167
ああ、ポンス	170
水車場の少女の「いいえ」	173
ハックルベリー・フィン風魔女バイ	176
働かざるもの食うべからず	179
ぼくの祖母はいい人だった	182
こうして百年の時代が去った	185
アレクシス・ゾルバのスープ	189



台所の人々

## 言葉のダシのとりかた

かつおぶしじゃない。

まず言葉をえらぶ。

太くてよく乾いた言葉をえらぶ。

はじめに言葉の表面の

カビをたわしでさっぱりと落とす。

血合いの黒い部分から、

言葉を正しく削ってゆく。

言葉が透きとおってくるまで削る。

つぎに意味をえらぶ。

厚みのある意味をえらぶ。



鍋に水を入れて強火にかけて、

意味をゆっくりと沈める。

意味を浮きあがらせないようにして

沸騰寸前サッと掬いとる。

それから削った言葉を入れる。

言葉が鍋のなかで踊りだし、

言葉のアクがぶくぶく浮いてきたら

掬ってすくって捨てる。

鍋が言葉もろともワッと沸きあがってきたら

火を止めて、あとは

黙って言葉を漉しとるのだ。

言葉の澄んだ奥行きだけがのこるだろう。

それが言葉の一番ダシだ。